



四季の風

第 22 号

31. 2. 4

“伝える力”

～「ことばの輝き」優秀作品コンクール最優秀賞～

先週、広島県「ことばの輝き」優秀作品コンクールで、最優秀賞を受賞した2年生の村上さんを引率して、表彰式に参列しました。表彰の前に、作文の主旨を説明するのですが、小学校、中学校、高等学校そして特別支援学校の児童生徒の発表力と、作文や読書感想文のテーマや内容に感心しました。

本校村上さんの意見文は、論理性が評価されたものです。本人の了解を得たので紹介しますが、確かに本内容には、先生方も含めて皆で考えていきたいと思える説得力があります。私たちは言葉を使って共に生活している以上、自分の思いを正確に伝えられるよう語彙力を高め、心豊かになるような対話を楽しみたいものです。素晴らしい提案をありがとうございました。

「伝える力」

村上 茶観

私たちの世代で、ことばに気を付けている人はどのくらいいるのでしょうか。インターネットやスマートフォンが普及している今、人々は様々なメディアを通して日々の出来事やつぶやきを発信します。しかし、そこで自分が伝えたいことを相手に伝わるように発信している人は、多くいるとは限りません。

現代では、若者が使う言葉、いわゆる「若者言葉」や、「略し言葉」ネット用語が普段の生活でも多く見られるようになりました。例えば「やばい」や「まじで」「それな」などがあります。「やばい」と言う言葉は元来危険なときに使う言葉でしたが、最近になっては、感動したときや嬉しいとき、驚いたときなど、マイナスな印象だけではなく、感謝が高ぶっているときにも使うようになりました。つまり、「若者言葉」において、「やばい」という言葉はどんな場合にも使える万能言葉になったのです。

このことから言うと、私たちは「やばい」の一言で会話を繋げたり、伝えたりすることができるというわけです。しかし、それは果たして良いことなのでしょうか。確かに、私たちが普段感じていることを、一つの言葉に置き換えられるなら、それはとても便利だと思います。けれども、この言葉に頼りすぎていると、私たちの語彙力は低下していき言葉の表現力も低下します。ふと心に浮かんだ思いや感情を伝えるときさえも、難しくなります。コミュニケーション能力の低下に繋がりがねません。

それだけではありません。「若者言葉」は決して礼儀正しい言葉ではないのです。目上の人に対して使うのはとても失礼であり、マナーが悪いとされます。そして、印象も余りよくありません。例えば、一つの絵画を鑑賞したとき、一人はその絵画に対して「色がやばい」と感想を言ったとします。もう一人は「木々の色や水の色に深みがあって、奥行きが感じられる」と応えました。どちらの印象が良いか、と尋ねられたら後者を選ぶ人がほとんどでしょう。言葉はその人の印象をも表すのです。

いくら数学ができて、絵を描くのが得意でも、スポーツに長けていたとしても、語彙力が無ければ相手とコミュニケーションをとるのは難しくなります。相手に与える印象も悪くなります。現代社会では、コミュニケーション能力を重視しています。現代を生きる私たちにとって、「伝える力」は必要不可欠なのです。様々なソーシャルメディアをこなす前に、言葉という伝達メディアを使いこなすことが、今の私たちに必要なのではないかと私は考えます。



そして、表敬訪問しました

1月30日には、中学生の税に関する作文で、全国納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞した3年生の尾崎さん、そして村上さんと共に、廿日市市教育委員会教育長を表敬訪問し、入賞の報告をしました。教育長から「書くことは好きですか?」「きっかけは?」など色々質問されましたが、緊張しながらも自分の考えをきちんと伝えていました。皆さんも色々なことに挑戦して自分の可能性を伸ばしましょう!



今後の予定

2/5	火	1・2年生参観日 14:25～授業 15:25～懇談 ※寒い中、頑張っている生徒を参観ください!
6	水	生徒朝会
8	金	SC来校 1・2年生試験範囲発表 PTA3校合同役員会
12	火	～15日 広島地区私立高校一般入試
14	木	読み聞かせ ～20日 1・2年試験週間・教育相談



＜卒業前の環境整備＞＜自転車交通安全教室＞



昨年度に続き「四季中サポート隊」「四季中PTA」主催で、在校生のボランティアと3学年保護者の御協力を頂いて体育館の清掃と、卒業生対象の自転車交通安全教室が開催されます。本日案内を配付しましたのでよろしくお願い致します。